令和５年度第１回旭川市農業センター運営懇話会　会議録（要旨）

１　日　時　令和５年１０月１７日（火）　午後１時３０分から２時３５分まで
２　場　所　旭川市農業センター　ホール
３　出席者　（参加者）
　　金ヶ崎　一美氏，熊谷　佳子氏，後藤　英次氏，小沼　隆礼氏，坂田　幸親氏，谷本　守氏，西川　貴浩氏，山崎　賢治氏，吉田　友弘氏（五十音順）
　　（市　側）
　　細矢農業センター所長ほか農業センター職員５人
４　議題
⑴　令和５年度旭川市農業センターの事業概要について
⑵　その他
５　会議資料
　資料１　　令和５年度旭川市農業センター試験課題等一覧
　資料２　　令和４年度旭川市農業センター試験成績書（概要版）
　資料３　　令和５年度（２０２３年度）農業センターのあらまし
　当日配布資料　令和５年度の農業センターの取組
６　会議の公開・非公開の別　公開
７　傍聴者　なし
８　議　事
【進行役】
それでは，次第に従い進めさせていただきます。
まずは，⑴令和５年度旭川市農業センターの事業概要について，事務局から説明をお願いします。
【事務局】
（当日配布資料を基に説明）
【進行役】
ただいま，事務局から，「令和５年度の農業センターの取組」を中心に説明がありましたが，御質問や御意見等がありましたら，お願いいたします。
【参加者】
２つ３つ，質問をさせていただきます。
まず土づくりの方で土壌分析ですが，過去のデータを見ると，令和４年度はその以前から見るとかなり増えているのですが，増えたのはこういうことを行ったから分析する人が増えたとか，そういうことはあるのでしょうか。
【事務局】
令和４年度は１，８３８点ということですが，令和４年度から令和５年度にかけて，農林水産省の方で肥料価格高騰に対する対策支援事業がございまして，いくつかメニューがある中で，土壌診断を実施して肥料の使用量を抑制するといった取組をされている農業者の方に対しては支援金を支給するという事業が展開されました。そのため，土壌診断を利用される方が増えたという状況と，令和５年度も若干増えている状況が今のところあるのですが，国

全体として土壌診断を進めようという施策・取組がなされている中で，本市においても一定程度増えているという状況となっております。
【参加者】
　ということは，外的な要因で増えているという感じでしょうか。
【事務局】
　それが一番の要因ではないかと思います。
　加えて，農業センターでも土づくり対策ということで，地域の農業者のほ場を巡回して土壌分析の啓発に努めているところでありまして，そういったところから手応えがあって分析をしてみようという反応も得られているところです。その部分も相まって，１，８３８点という結果になったと考えています。
【参加者】
　国の事業は来年も続くのでしょうか。
【事務局】
　今年度いっぱいということなっています。
【参加者】
　目標値が２，１００点となっているのですが，昨年増えた件数よりも更に多いのですが，目標を高くしている理由は何かあるのでしょうか。
【事務局】
　旭川市として，土づくりを農業者の方々に力強く取り組んでいただきたいということで，まずは数として目標を設定して，それに向けて取り組んでいくということでございます。
【参加者】
　なかなか目標を達成するのは他に何か考えないと難しいかとは思いますが，これからそういう方向で頑張られるということで，理解いたしました。
【事務局】
　１回，２回の巡回ではなかなか伝わりきらないとは思うのですが，繰り返し継続して粘り強くお伝えしていくことによって，この目標に近づいていくよう努力していきたいと考えております。
【参加者】
　２点目なんですが，新規就農に対する技術研修というのは，園芸に参入する既存の農家さんを対象としているのか，それとも新規就農をする方を対象としているのでしょうか。
【事務局】
　北海道の認定を受けた研修教育機関としましては，ゼロから新規就農する方が対象ということで研修を行っておりますが，その内容が新規就農して間もない方に対しても同じく参考になる内容でありますので，水稲に参入される方は対象ではないのですが，園芸で参入された方に対しましては，同じく研修の対象としまして，案内を差し上げているところでございます。
【参加者】
　既に就農されている方も含まれるという理解でよろしいですね。
【事務局】
　はい。

【参加者】
対象が１４人というのは，上限として設定されているものなのでしょうか。令和４年度の実績を見ると，園芸参入者技術研修は２０人参加されているようですが。
【事務局】
１４人というのは，本年度案内を送っている人数です。内訳としては，就農前の研修生の方が２人，残り１２名の方が既に就農されている方です。昨年より人数が減少しているのは，実際に営農していく中で，研修に出る時間がないなど，研修案内を辞退される方がいらっしゃったためです。
【参加者】
わかりました。
それでは，３点目ということで残留農薬の件なんですが，この取組は「クリーン農業技術試験研究事業」で行っていると思うのですが，この事業内容の中では，残留農薬の分析の他に，残留農薬リスク低減のための試験を実施すると書いてありますが，こちらに関してはどのような取組を計画されているのでしょうか。
【事務局】
ここ数年は実施してはいませんが，過去には農業センターの試験ほ場において，実際に作物を栽培しながら新しいタイプの農薬や地域であまり使用されていない農薬などを使って，実際の作物の残留度合いや使用方法に関する情報について試験研究を行っておりました。
ここ数年は，そういった要望が揃わなかったり，センターでの体制が整わなかったりで試験実績はありませんが，中身としてはそういった取組を想定しているということでございます。
【参加者】
ということは，農薬に関する試験は一定程度実施したので，今は園芸作物での要望が上がってきていないという理解でよろしいでしょうか。
【事務局】
現状はそうですが，今後新たな要望があったりした場合は，実施についてその都度検討していくということになろうかと思います。
【参加者】
ありがとうございます。以上です。
【進行役】
ありがとうございました。
その他，御意見・御質問等がありましたらお願いします。
【参加者】
土壌分析の実施をして，様々な結果が出ると思うのですが，その後がわからないので教えてください。
【事務局】
土壌分析を実施しますと，畑の中の肥料分の残量であるとか土の性質といった，今後の栽培に役立つ必要な情報が得られます。そういった内容を基に，依頼者である農家さんや家庭菜園を行う市民の方に，今の畑の状況や次年度に向けた肥料や土づくりの設計といったアドバイスを数字とともにお返しして，次年度の作付けに役立てていただくという流れになりま

す。
【参加者】
確認なのですが，サンプルの土の集まっている感じとしては，個人で出される方が多いのでしょうか。農協などでまとめて出される方が多いのでしょうか。
【事務局】
例年，大体同じような傾向にあるのですが，８割から８割５分は地域の農協さん経由で農家さんが提出されているといった状況です。残りは，農家さん個人が直接出される又は家庭菜園を行っている市民の方が出されるといった状況になっています。
【参加者】
ありがとうございました。
【進行役】
その他，ございませんか。
それでは，次に進んでもいいでしょうか。
最後に，⑵その他ということですが，農業センターに新たに求めたいことや，実施してほしいことなどについて，皆さんから御意見をいただきたいと思います。
大変恐縮ではありますが，お座りいただいている順に，一言ずついただけたら幸いです。
【参加者】
農業センターには，各品目ごとに課題の有無について打合せをさせてもらい，また，品種や栽培に関する部分で現場が困っていることや急を要することについて聞き入れてもらいながら，試験をしていただいている面については感謝しているところです。
今後も同様に，都度問題は起きてきますので，急を要する課題が出てくることはあろうかと思いますが，柔軟に対応していただければと考えています。よろしくお願いします。
【参加者】
新規就農者の件で，いろいろ資料に記載があるのですが，具体的にどのような活動をしているのか，どのような可能性があるのでしょうか。
【事務局】
少し詳しく説明しますと，旭川市の新規就農の流れですが，まず，農政課経営支援係の相談窓口から始まり，新規就農を希望される方からしっかり聴き取りを行いまして，就農の意志が固いようでしたら地域とのマッチングを行います。マッチングでは，葉菜類や果菜類など，品目によって主な作付け地域が異なりますので，それに合わせた農協さんに御相談したり，指導していただける農家の方を紹介していただいたりします。指導農家の方の目途がついて，新規就農の意志が固いとなれば，農業センターが研修教育機関として北海道の認定を受けていますので，新規就農者の研修受入れ機関として２年間，指導農家の方と協力しながら研修を行います。
日常的な栽培管理や実際の作業に関しては主に指導農家の方で学んでいただきますが，それと併せて，就農する上で必要な知識，例えば農薬の正しい使用方法や病害虫の見分け方，農業機械の整備，人を雇用するに当たっての労務管理や御自身の経営管理など，日常の栽培の中だけでは不足する部分について，農業センターで研修を行っています。
【参加者】
現実として，農業を行っている中心的な年齢は７０歳代あるいは８０歳代で，５０歳代や

６０歳代は少ない状況です。これが５年後，１０年後になると農業をできなくなってしまうので，若い人たちにその土地を借りてもらって作ってもらいたいと思っても，若い人が極端に少ないため，作りきれなくなります。そんな中で，空いた土地が出てくるといった状況が迫ってきている訳で，このように新規就農に力を入れて新規就農者が増えてきたら，多少は緩和できるかとは思っているので，ちょっと聞いてみました。

雨紛地区については昔から野菜栽培が盛んな所でしたが，後継者がいないこともあって，若い人に農地を借りてもらうと，経営面積が次第に大きくなり，野菜が作れなくなってしまっています。何十年も前と比べると，半分いや３分の１ぐらいまで野菜の作付けは減っていると思います。１０年後になって，６０歳代や７０歳代の人が土地を守っていけなくなったら，大変な状況になると考えていますので，新規就農の部分については，力を入れてやっていってほしいと思います。

【事務局】

水田や畑作となると後継者の方が引き継がれることが多いと思いますが，農業の下地もなく，資金的な面もありますので，今，新規就農の相談に来られる方はほとんどが野菜で，研修の内容も野菜が中心となっています。実際に地域に就農された方もこれまでいらっしゃいますが，就農してから５年から１０年の間は不慣れな部分やわからない部分もあると思いますので，確実に就農する技術を身に着けていただくためにも，日常的に訪問しておりますので，そういったことも含めて頑張っていきたいと思います。

【参加者】

よろしくお願いします。

【参加者】

今の質問と被ってしまうかもしれませんが，高齢化や労働力不足，規模拡大により園芸が減少しているということについては，あさひかわ農協，東旭川農協，たいせつ農協，東神楽農協それぞれ同じ課題を持っているところだと思います。

それに対して，それぞれ農協の考え方はあるとは思いますが，お話にあったとおり，中心の農家さんが６０歳や７０歳代，後継者といわれる方も５０歳代という状況で，なかなか後に続く人がいないということもあります。農協で考えればいいのではないかと思われるかもしれませんが，行政も含めた中で，今後，考えていかなければいけない部分が出てくると思います。

新規就農者が最初に参入するのはどうしても園芸ということになってくると思います。上川管内の旭川地域というのは基幹作物は水稲ということで，他の農協の担当の方も水稲を作っていくらと思っていると思います。新規就農者が経営基盤もない中で，いきなり水稲などに参入するというのは難しいとは思いますが，その入り口として園芸を作り，そこから水稲又は畑作に参入できるような魅力を作れるような農業センターを目指してもらいたいですし，小学校の見学で来る子どもたちにも，農業はこんなに面白いんだということを伝えていただき，興味を持ってもらえるような働きかけを行ってもらえればと思います。

【参加者】

農業センターとの関係については，私が昔，青果を担当していたということもあり，もう４０年ぐらいと大変深いものがあります。まだ花菜里ランドが出来る前の頃から，苗の供給に始まり，私もいろいろな経験をさせていただきましたし，農協からの要望ということで，

今回出ている新たな品目・品種の選定や，残留農薬の試験についても平成１８年にポジティブリストとなった中で，何とか市で検査できないかといったお願いをした経緯もあります。

ここ最近では，冬野菜の栽培方法についても平成２５年頃から試験をお願いして，現在は少しずつ普及してきており，大変助かっております。

また，新規就農についても，先ほどの話にもありましたように，ここ神居地区ではレタス農家が４０軒あったものが数軒しかないといった状況であり，それを誰かがカバーできるかといえば，人がいないのでできないということで，何とか新規就農を育成するしかないとの考えから，ここ数年，市からのマッチング依頼に対しては，なるべく受入れをしています。

これから大事なのは，辞めていく生産者を補う何かをしなければならないということで，理想は新規就農の方が農機具等を含めて農家を継承していただくことなのでしょうが，今現在そのような農家さんがいないという状況で，いずれはそれを含めて考えなければならないかと思います。

指導農家の中ではできない勉強をこちらでやっていただくことは非常に助かりますので，今後もお願いしたいと思います。

【参加者】

当校では，農業体験学習を行っておりまして，農業センターには年間を通じて生物育成の専門的な技術指導をいただいています。この場をお借りして御礼申し上げます。

旭川市内の学校では今，地域の教育力を生かした特色ある教育活動の推進という大きなテーマを掲げ，取り組んでおります。本校は特に，農業センターが隣にあるということで，そういった部分の専門的な御支援をいただいて，まさに特色ある教育を進めていくことができています。今後ともぜひよろしくお願いしたいと思います。

私は，技術科の教員でありまして，１０年以上前ですが農業センターに土壌分析をお願いしたことがありました。中学技術の教科の中の生物育成という領域を必須で子どもたちに教えなければならないとなったときに，同僚の先生に専門的な知識がなかったものですから，農業センターにまず土壌分析をお願いし，畑をお借りして大豆の育成実習をさせていただき，最後はみそづくりまで指導していただきました。

先程，人材不足というお話が出ておりましたが，小学生や中学生の子どもたちに農業に興味を持ってもらうということを考えると，教育機関との連携ということも大きなテーマなのかと考えておりました。何か，そのようなことでお力添えできればと思っていますので，今後ともよろしくお願いしたいと思います。

【参加者】

令和５年度の農業センターの取組ということで，課題を３点挙げられていますが，全くそのとおりだと思っています。若い農業者の方が野菜を作らない，親から受け継いだ土地でも畑などに転換し野菜を辞めてしまうということがあるのですが，それは，野菜を作る上で魅力がないといったこともあると思います。自分の安定した農業経営の中に，野菜の部分を組み込めないということもおそらくあるかと思います。

今年に関しては，夏場の猛暑による高温障害がいろいろな品目であり，野菜の収益があまり上がらない中，更に追い打ちをかけるような天候となりました。今後はさらにこのような天候が多くなっていくのかなと生産をして感じております。そんな中で，高温対策ということがこれから必要になってくると思いますので，取り組んでいただければと思っています。

ただ，暖かくなってきたということは，裏を返せば，積算温度や日照時間などをカバーできるということで，こちらで今まで作付けできなかった品目を生産できるという希望も出てきています。シャインマスカットやさつまいもといった新しい品目も出てきておりますが，今までできなかった品目を試験していただき，技術が確立できれば，それも一つの魅力として若い生産者に示していけるのではないかと思っています。よろしくお願いします。

【参加者】

上川農試では，ナスの養液栽培について来年から取り組む予定がありまして，うちの研究員もお世話になっていると思うのですが，これから情報共有をしながら，ますます御協力をお願いしたいと思っています。

シャインマスカットについても，これからの品目として，こちらも情報共有しながら進めていけたらと思っています。これからもよろしくお願いします。

農業センターへの希望としましては，先程も冬野菜の話が出ましたが，冬季無加温栽培が留萌や宗谷などで少しずつ広がってきております。そんな中，実は病害虫対策というのが手つかずとなっていまして，冬でも病害虫が発生するということもあります。それに対する取組を上川農試でもやっていきたいと考えていますので，農業センターで冬野菜の試験をこれから手掛けることがあれば，ますます一緒にやっていきたいというお願いと，冬野菜の現場で問題が起きているのであれば情報をいただきたいと思っています。また，支援会議などの場に冬野菜の病害虫の問題をニーズとして上げていただければ私たちも取り組みやすいので，よろしくお願いしたいと思います。

【事務局】

今回，サツマイモに関しましては，支援会議にお世話になっております。冬野菜や他の地域的な要望があれば，御支援いただければと思っていますので，よろしくお願いします。

【参加者】

初めての参加で，農業にも従事していないため，間違ったことを言ってしまったらすみません。

昨年，市民農業大学に参加させていただきまして，その中で，農業は魅力があって楽しいものだという経験をしました。ぐっと自分の生活が農業に近づいたときに，すごく苦労があるということと，すごく楽しさがあるということを知って，自分でもやってみたいと思い，去年は新規就農についてかなり調べました。

ただ，５０歳を超えるとかなりハードルが高いというかほぼ不可能だということがわかって諦めたのですが，どうにかならないのかなと今も考えています。

ある雑誌で「小さい農業の増やし方」という記事を読んだときに，法律も少し変わって小規模農業で新規参入する人たちが塾などをやりながら増えているという地域があるのを知り，旭川にもハードルの低いところから経験を積んで，農業に従事していく人たちを増やす方法はないのかと思いました。

また，石川県のあるＪＡが自然栽培で農業塾をやっていて，その取組を調べたときに，すごく面白くて，新規就農者が入りやすくなっているということがわかり，旭川も農業の魅力で輝ける街になったらいいなと思いました。

その他には，ある幼稚園で，糸状菌を増やした畝で子どもたちと一緒に野菜を作ったら，とても楽しく子どもたちと農業を体験できたということ知り，旭川市内の小学校・中学校・

幼稚園の子どもたちにも，もっと身近に農業を体験できる何かができたらと感じました。

今回，この会に参加させていただくことになり，農業センターに何回か足を運び，下水汚泥の活用法を試験していると教えていただきました。美瑛町は全戸の汚泥を利用して肥料化しているという話を聞いたので，美瑛の方にも話を伺ったのですが，美瑛の農家さんは，農地に多く利用したときに，その結果がどうなるのかがまだ見えず，ハードルが高いと考えていると教えていただいて，汚泥の肥料化が進んだとしても難しい側面もあるということを知りました。であれば，メリットとデメリットを農家さんに十分に情報公開するということが必要になるのかなと思いました。以上です。

【参加者】

今の汚泥の話ですが，美瑛町が実施されている汚泥の関係については町ぐるみで行われていますが，農家さんでは使用しておらず，現在は町民の家庭菜園で使用してもらう形で進めていると聞いています。

当ＪＡの方にも，ある民間企業さんが見えられ，一緒に汚泥の取組をしないかということで，農家で利用できるかという試験を水稲・小麦・野菜で行っていこうと考えています。試験結果が出れば，農業センターにもお伝えしたいと思いますので，よろしくお願いします。

【進行役】

今日は，小学校からも参加をいただいているということで，私は去年まで１年間，教頭先生と一緒に農業教育のお仕事をさせていただきましたが，児童からすれば，どこにどの作物がどう成っているのかすらあまりわかっていないので，今後も，農業センターと学校との近い取組は継続していってほしいと思います。進める上では，地域で振興する品目ですとか地域の基幹作物，また，上川であれば全国一の産地であるコメなどについて，将来の消費や生産の応援団となってくれる小学生・中学生・高校生などの若い人にできるだけ農業の接点を増やすような取組がいいのかと思っています。

今は，少子高齢化で人が足りないということで，農業現場では機械化，人の乗らないトラクターが土を耕すですとか，ドローンが種を蒔いたり農薬を撒いたりということもありますが，臨機応変な課題というところで，例えば農福連携であれば，全道の研修を農業センターで開催していたと思うのですが，今，農福連携は，農業者と福祉事業所同士が知っているという接点があって行われているというものが何十もあると思います。今困っているのが，例えばミニトマトは色の濃い薄いを判断するのが難しいとか，葉物であれば野菜は収穫しやすいとか，作業を分解して，福祉事業所でやりやすい仕事を選定するなど，そういうところに力を入れていただければ，今後タイムリーな話になるのかなと思っています。

また，今国が「緑の食料システム戦略」ということで進めていますが，恩恵もありますし，必ず進めなければならない部分でもありますので，減農薬・減肥，有機農業などの課題も，進めやすいところからでいいですので，地域にある作物中心に，一緒に検討していければいいのかなと感じておりました。

ただ，今日お話を聞かせていただいて，地域の基幹作物や新品種ですとか，農業者の方はほとんど間違いのない品種を選べるといったところで，地域農業に大変貢献されておりますし，新規就農者も毎年１５人程度いらっしゃると思いますが，日々の細かな巡回ですとか，同行もさせていただき大変ありがたく思っております。今後とも，一緒に情報共有させていただきながら，進めていければうれしく思います。

施設の有効利用の中に，アイスクリームづくりという記載がありましたが，例えば，新規作物で農協さんが導入しているサツマイモやシャインマスカットのアイスクリームを作ってみるとか，地域の企業さんと連携して商品を作って出展してみるとか，調理は女性部の方にお願いしながら，みんなで一体となって進歩していくといったところにつながれば，皆さん個々で素晴らしい取組をされていますので，今後の旭川の発展や知名度の向上につながるのかなと思っておりました。

それでは，全体を通じまして，何か御意見等がありましたらお願いします。

ないようですので，以上をもちまして，議事を終了させていただきます。

皆さま，円滑な会議の進行に御協力をいただき，ありがとうございました。